

会議・協議等記録簿（要旨）

企画課 企画調整

議 題	第1回野沢地区のまちづくりの構想策定に係る有識者会議		
日 時	令和元年9月3日（火） 午後 3：00～	場 所	市役所8階 大会議室
出席者	小林直人委員、荻原泰昭委員、森角和士委員、伊藤康弘委員、白田行孝委員、小林勉委員、北澤潔委員（代理）、堀内ふき委員、吉沢久委員（代理）、下平匡克委員 都市計画課：東出 企 画 部：佐藤部長、若林課長、木下係長、中村		

- 1 開 会
- 2 委 嘱
- 3 あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 有識者会議について
- 6 座長選出について
- 7 議事

議事内容まとめ	
事務局	(1) 野沢地区におけるまちづくりの構想の策定方針について説明【資料3】 (2) 「野沢まちづくりミーティング」の検討結果まとめについて報告【資料4】 (3) 意見交換【参考資料1、2】 <div style="text-align: right;">について説明</div>
座長	意見交換は、【参考資料2】に沿って、項目ごとに出していただきたい。 まずは、「野沢地区におけるまちづくりの構想の策定方針について」、ご意見を お願いしたい。
委員	野沢地域が暮らしやすいまちであることには共感している。 都市機能については、佐久平駅周辺をはじめとした浅間地区に、公共施設については市役所周辺に集積しているように思う。 野沢地区を暮らしやすいまちと位置付け、これを実現していくためには、歩きやすさへの対応など、インフラ等への市からの投資をお願いしたい。学生が減っている一因として、駅からの通学しにくさなども考えられるため、このようなインフラ機能の充実をお願いしたい。 また、市の取組みとしては、一つの地区に集中的に投資することなく、野沢地区における文教地区というような位置付けのように、エリアごとの特徴を生した方針のもとで進めていただきたい。

委員	<p>まちづくりミーティングでも出された意見だが、改築する野沢会館については、人が多く集まれる機能への期待が大きい。他の地区館とは違う機能を希望している人が多く、これからの時代に対応するためには、例えば食べ物の自動販売機を置くなど、従来の位置づけと違った要素も取り入れる必要があると考えている。</p>
委員	<p>構想の策定方針にある、暮らすまちという位置づけは野沢地区を考える上では大切なことであると思う。個人的なイメージではあるが、浅間地区は買い物や遊びなど、出かけて行くための拠点になるまちであり、中込や臼田は行政機関や病院など、必要な目的を持ったまちである。</p> <p>一方で野沢地区は学び、育て、日常の潤いがある、まさに暮らすまちであり、子ども達が安心して暮らせるまちであるので、このコンセプトを大事にしていきたい。</p> <p>例えば、学べるという観点では、野沢会館が世代を問わず安心して学べる場所である。また、遊ぶという観点では、地区の公園や小学校の校庭は子供たちが安心して遊べる場となっている。他の自治体を見ても、校庭に子供たちが遊びに来るといった地域はあまりなく、暮らしに安心感が根付いている結果だと思われる。今後は更なる安心につなげていくことが大事と考える。</p> <p>また、小さなお子さんをお持ちで働いている世代が安心して暮らせるよう、児童館と学校のように、福祉と教育が一体となり支えてもらえる、安心感があるまちという要素も必要と考える。</p> <p>さらに個人的な意見であるが、子ども達がヘルメットを被らず登下校できるような、安心・安全で暮らせるまちとなれば良いと思う。</p>
委員	<p>15年ほど前に野沢地区に住んでいた時に感じたことであるが、学校、商店、病院などが近く、コンパクトに纏まっており非常にいい場所だと感じた。当時は普段の買い物は野沢で済ませ、その他のものについては佐久平周辺に行っていた。</p> <p>一方で、今の姿を見ると、かなり当時との差があると感じられる。当時は佐久病院が分院する前で、子どもに急病があった場合等でも、すぐに行けるという安心感があった。また、今と比べてバスの本数が多く、通勤にも利用していた。そういう面で利便性が低下してしまったと感じられる。</p> <p>このことから、策定方針にある、「若い世代の人口移動の契機となる、結婚、出産、子どもの入園・入学等、ライフステージの変化の節目」を捉えることが必要で、これなしでは人口増加やまちの活気へ繋がらないと思われる。</p> <p>まちの活気や人口増加のについて考えると、住宅地の供給は必要な事項である。また、交通の便が弱い部分もあるが、対策を打つことで、若い世代に選ばれるまちとなれると考える。</p> <p>野沢地区は、約18,000人の人口規模があるまちであるが、県内で考えると大きな町と同じレベルであり、潜在的な資源があると考えられる。</p>
座長	<p>他にはないでしょうか。</p> <p>次に「(2) 野沢まちづくりミーティングの検討結果まとめについて」、ご意見をお願いしたい。</p>

委員	<p>約20年前は野沢地区が学生の遊びの場であった。まちづくりミーティングの結果を見ると喫茶店など、当時野沢地区にあったものがニーズとして多く見受けられる。また、麻雀店など、年代ごとの文化が感じられるものもある。</p> <p>野沢地区には暮らすために必要な機能がそろっているが、加えて広い歩道があると良い。佐久平を例に挙げると、新しく広い歩道ができたことで、ウォーキングをする人が増え、犬の散歩による飼い主同士のコミュニケーションが生まれ、学生などが通学路として利用している。野沢地区でも、子ども達が安心して、気軽に通れる空間や交流の促進になる場所の創出が必要と考える。</p> <p>また、野沢地区の祇園祭は中学生がメインとなっているとのことで、他地域にない文化を感じる。中学生や高校生の力を更に生かしていけると良い。特にこれからの商店の活用については、学校と一緒にやっていくことも重要であるので、より子ども達が活躍できる場所を作っていただきたい。</p>
委員	<p>まちづくりミーティングの中でも、野沢会館に対する期待の高さというものが伺えた。地元からの意見としては、今の機能が更新されるだけの、ただの生涯学習施設としてではなく、まちのシンボルとして人が賑やかに集まれる場所を期待している。</p> <p>また、近年は図書館などの公共施設にカフェが入ったもの等があるが、そのように、まちのシンボルであると同時に、人々が集まり、寄り添い、話し合い、世代間を越えた交流ができる施設が望まれているように思う。</p> <p>さらに、暮らしやすさという面で、若者が地域に戻ってくるためには、仕事が必要である。また、飲食店も野沢地区に必要な機能である。会社員が昼食を摂る場所が無く困っているという意見を聞いた。例えば、商店街やびんころ地蔵周辺をゾーニングし、飲食店や特色のある商店が、起業できるようになれば良いと思う。また、びんころ地蔵へ観光で来た方に、地域内で時間を使ってもらうためにも、飲食店の配置が必要である。</p>
委員	<p>野沢会館については、担っている役割が大きいと感じており、これからどのように機能させていくかということは重要な点である。</p> <p>例えば、高齢者世代が車が無くても行ける場所にあるということは重要であるが、そのためには歩道の整備が必要である。市内でも、自転車道と分離されている歩道は少なく、また、車いすが通るには角度がついていたり、狭い場所などもある。このようなことから、会館の整備ということだけでなく、地域全体として人の動きを考えることは大切である。</p> <p>また、大学生を野沢地区に住まわせるための方法も考えられると良い。</p> <p>さらに、商店街については、飲食店を検索してもあまり野沢地区で該当せず、佐久平が出てくることが多い。野沢地区が持つ良さや古さも残しつつも、オシャレさがある店舗があれば、人の流れができると思う。</p>
委員	<p>野沢地区も以前は人や店舗が多くあった時代もあったが、今の時代においては人口が減少している面も仕方の無い事かと思う。参考資料1の図面のうち、黄色い線で囲われた居住誘導区域内は、新たな住宅が建設されているが、ピンク色の線で囲われた都市機能誘導地域内は空き家が増えつつある状況もある。</p> <p>最近では、閉めてしまう飲食店や商店街の開いていない店舗もあり、地域とし</p>

	<p>ては影響が大きいと考えている。この問題を解決しないと、人口が増えたとしても問題となってしまふ。</p> <p>びんころ地蔵は、全盛期に比べ参拝者が減っている。地区では、再度盛上げていくための方策を検討中であり、まちに更なる集客力を付けることが必要と考えている。</p>
座長	<p>他にはないでしょうか。</p> <p>最後に「まちづくり全般について」、ご意見をお願いしたい。</p>
委員	<p>まちづくりミーティングでも、若者からの出された要素として、「地域外との交流により活力を伝え、また呼び込めるまち」との意見がある中で、定住人口だけでなく、つながりによる関係人口にも着目し、訪れる人を増やしていくという観点が必要である。</p> <p>また、びんころ地蔵周辺の城山公園や成田山薬師寺などは、歴史文化が感じられ、落ち着いて楽しめる場所であると思う。そこを商店街などとセットにしながら誘客を図ることが目指す方向と考える。</p> <p>さらに、野沢会館への期待が大きいとの事である。まちづくりミーティングで若者と子育て世代に共通する項目があるが、野沢会館の建て替えによりこの希望を満たせるものであると思われる。例えば、開催されている講座に行くだけではなく、集まった多様な世代が、交流できるようなしつらえをすることで、新たなつながりが生まれると考えられる。</p>
	以上

8 その他

9 閉会